

KiKiの広場

2020年 9月 1日
cafe NO.119
KiKi



2010年9月25日にオープンした「ヒストリア宇部」と「絵本 cafe KiKi」。今年25日で10年を迎えます。10周年を記念して、日頃利用していただいている市民の皆様と共に10年を振り返りながら、地域の活性化に貢献できる公共施設を目指したいという思いで、9月24日（木）から27日（日）まで、《「ヒストリア宇部」10周年記念市民祭》としてイベントも予定しています。

ただ新型コロナウイルス感染防止の為、宇部市からの要請で、8月25日から9月6日まで臨時休館となっている今、感染が少しずつでも落ち着いてくれるのか、またこのまま開催していいのかなど心配は尽きません。オープン当初の学生スタッフのMくんやKiKiスタッフのIさんは、早々にパーティーへの参加の返事をくれました。懐かしい仲間と再会できることを祈りながら、7日から再開できることを期待して準備を重ねていきたいと思います。

定期休館日	8日(火)
定休日	毎土・日・月曜日
臨時休館日	1日(火)～6日(日)

臨時営業のお知らせ
26日(土)・27日(日)は、
《「ヒストリア宇部」10周年記念市民祭》
開催中の為、カフェも営業します。

今月のお気に入り・・・「なぜか心惹かれる月の絵本」

～「おつきさまひとつづつ」「月へ行きたい」「おつきさんのき」「つきよのおんがくかい」「ためきのおつきみ」などなど～



「おつきさまひとつづつ」の作者は長野ヒデ子さん。そしてお話の中に出てくる「ちいさいあこちゃん」は、娘の長野麻子さんのことだそうです。あこちゃんの素朴な質問にお母さんが優しく答えます。お月さまに見守られ安心して眠りにつくあこちゃん、ほのぼのと優しい気持ちになる絵本です。

「月へ行きたい」は、月への行き方を男の子が考えます。小学生が3億人つながるとたどり着く・ジェットコースターで3か月・新幹線なら55日・飛行機で15日などなど。そして圧巻はロケットの紹介。折り返しの見開き2ページを使って、見ごたえいっぱい！夢がどんどん広がっていく絵本です。



今月の本棚・・・「秋の気配を感じる絵本」

～「きんいろのとき」「もりのおふろ」「14ひきのあきまつり」「もりのかくれんぼう」「川はたまげたことだらけ」などなど～



文は「せかいのはてってどこですか？」のアルビン・トレッセルト、絵はロジャー・デュボアザン、訳は江國香織さんの「きんいろのとき」は、夏の終わりから秋の終わりの季節を「きんいろ」と名付けた季節感たっぷりの絵本です。原題は、「AUTUMN HARVEST」。それを「きんいろのとき」と訳した江國さんの文章がとても素敵です。色鮮やかなページの合間にモノクロのページがあり、それが深まりつつある秋の様子を表しています。「もりのおくでおふろがわいています。」で始まる

「もりのおふろ」ストーリーはいたってシンプル。ライオンから始まっているいろいろな動物がおふろに入ろうとやってきます。季節感はないのですが、なぜか秋の気配を感じます。お話からも絵からもほのぼの感満載で、ほっこりする絵本です。



ほっとフレイク



8月22日付けの「Sunday」に載った記事です。ガーデンテラスに置かれている薔薇は四季咲きなので、これからの季節また楽しめます。ペイザンのピザや7種類のカレー、そしてオープン当時から人気のKiKiオリジナルの「黒豆ジュース」を、オープン・カフェで味わってみませんか？

